雪の日に出会った君と

空野　アカネ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
雪の日に出会った君と

【Ｎコード】
Ｎ５５７２Ｒ

【作者名】
空野　アカネ

【あらすじ】
主人公黒崎（くろさき）　美桜（みお）は
雪の降る日になぜか頭にパンツをかぶった
自称天使　ルノ（思いっきり不審者）に出会う。
ルノと美桜のどたばたコメディーをかけたらいいな。

雪と私と・・え！？パンツ！？

「あ・・・！」私は読んでいた小説をパタンと閉じ、窓に目をやった。
「雪だぁ！」今年に入ってはじめての雪。思わず歓喜の声をあげる。思わずうっとりと見とれてしまった。

東京の隅っこに住んでいる私は、雪が降っている地域にすごくあこがれてしまう。
だってほらフワフワと舞い落ちる雪ってなんか天使とか一緒に連れてきそう。
それぐらい綺麗に見えてちゃうんだ。

「なーんてなぁ・・・」高校生にもなってこんな妄想自分でも笑えてしまう。
いつまでもメルヘンな夢見てるんじゃないよ！私！！！
もう夢見る少女の時代は遥か昔に終わったんだ・・・・・。

窓を少し開けるとビュウッと冷たい風が部屋に入り込み私はブルリと身震いした。
「さあああむううう！」ココアでも飲もうか。女の子は体を冷やしちゃダメなんだぜ。
ストーブをつけながらふっともう一度窓に目をやった。

「うわ・・風強い・・」さっき見たときよりさらに風が強くなってきている。
運よく洗濯物は干していない。部屋から見えるお向かいの家なんて今にも洗濯物が飛んでいきそうだ。
あっ・・飛んでった。どーするよあれ。真っ白なパンツだよ・・・。

よごれ一つない真っ白ブリーフ・・・・。

おっ。なんかに引っかかった。よかったなぁ。地面に落ちて拾われなくて。

カラスか何かに引っかかったんかなぁ

なんてのんきに考えていたが私はハッと気がついた。

誰かが空を飛んでいてそのパンツをナイスキャッチしていたのだ・・・・。

雪と私と・・・え！？パンツ！？（後書き）

なんでこんなものを書いたんだｗｗ
カメ更新ですが、皆さんに楽しんでもらえたらいいです。

出会い

ちょっと待て。これは一体・・・。いや、この雪の中だ！
見間違いかもしれない・・・。私は何度も何度も目をこすり
もう一度謎の飛行物体がいる所をガン見した。

「うそお・・・・」間違いない。人間だ・・・・。
ヒュウと飛んできた真っ白ブリーフをキャッチし、なぜか頭にかぶりはじめる始末。
なんか機嫌よくクルクル回り始めたぞ！？（もちろん空中で）

人間誰でも信じられない事が起こると夢だと思いたくなる。
いや信じ込もうと努力する！もちろん私なんて典型的なその一人だ。
ばっちーーーーーん！部屋中に乾いた音が広がる。
「いっだあ！？」思いっきりほっぺを叩いてみたが痛い・・・。
やっぱりこれは現実だ・・・。ってか、真剣に痛い！本気でやりすぎたっ。

これはあれだ。絶対に関わるな。関わるとロクな事ないぞ。
私は何も見ていないフリをしよう！カーテンを閉めようと窓辺に近ずいた時だった。

「ぎゃあああ！！！！！」自分でも驚くぐらいの叫び声を上げてしまった。
「ななななな！！！！！」なんと窓にそのパンツかぶった飛行物体が顔を

べたりとひっつけこっちを見ていたのだ。
１２歳ぐらいの女の子で
少しウェーブをうった茶色い髪の毛に同じ色の瞳。まつ毛なんて超長い。
ようするにめちゃ美少女。その細い体は薄い生地で半そでの水色のワンピースで包まれている。
同性の自分でもホゥとため息がつきそうだ。
って今はそんな事考えている暇ではない！！

「ちょちょちょちょ！！！」カーテン！カーテン閉めよう！！！！あっちいけ！しっ！しっ！
しかし私の願いもむなしく窓がカラカラと開いた。
いや、勝手に開けられた・・・・。

「こんにちわぁ～」飴玉を転がすような甘い声。美少女は声までも美しいのか。
私なんかと大違い！神様って不公平。少し・・・いや、かなり怨んじゃう。ちぇっ！

って「なんで勝手に入ってくるんですかぁ！？」「寒いんです。」
寒いのはわかってます・・・。しかし少女はなんの悪気もないようだ。

「くちゅっ・・・」少し寒そうにしているのであわてて窓を閉め部屋に入れた。
ストーブを入れ台所に行きココアを入れてあげる。
目の前におかれたカップの中身を不思議そうに見つめる美少女（し

かし頭にパンツ）
「これは・・・おいしいのですか・・・？」クンクンと中の匂いを嗅ぎ
おお！と目を輝かせた。

「すごくいいにおいがします！」「お・・・おいしいよ！体も温まるし・・」
美少女（しつこいようだが頭にパンツ）こくんとうなずきちょっぴりココアを口の中に含めた。
「わぁ・・・！あまぁい！」やわらかそうな頬をピンクに紅潮させ嬉しそうに
どんどんカップの中身を飲み干していく。
「ごちそうさまぁ！」口の周りについた茶色いおひげをぬぐいがらパンツちゃんは
両手をあわせる。

「こんなものを数分で作れるあなたは素晴らしい！！！」「いや・・ただのココア」
「いいえ！」パンツちゃんは白い手を私の手に重ね合わせ、その可愛らしいお顔を
どんどん近ずけてきた。近くで見ても可愛いのね・・・・！
「本っ当にありがとうございます！美桜さん！！！」

「いやぁ・・・そんな褒められても・・・何もでませんよぉ～」
人間褒められると照れる。しかも美少女だと威力大！
えへへへへへへへへへ・・・・悪い気分はしないなぁ～。

そこで私は気がついた。

「ねぇ。どうして私の名前しってんの？」美桜。それは私の名前だ。

出会い（後書き）

少し長い話になってしまいました・・・
最後まで読んでくださってありがとうですｗｗ

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n5572r/

雪の日に出会った君と

2011年10月8日20時38分発行